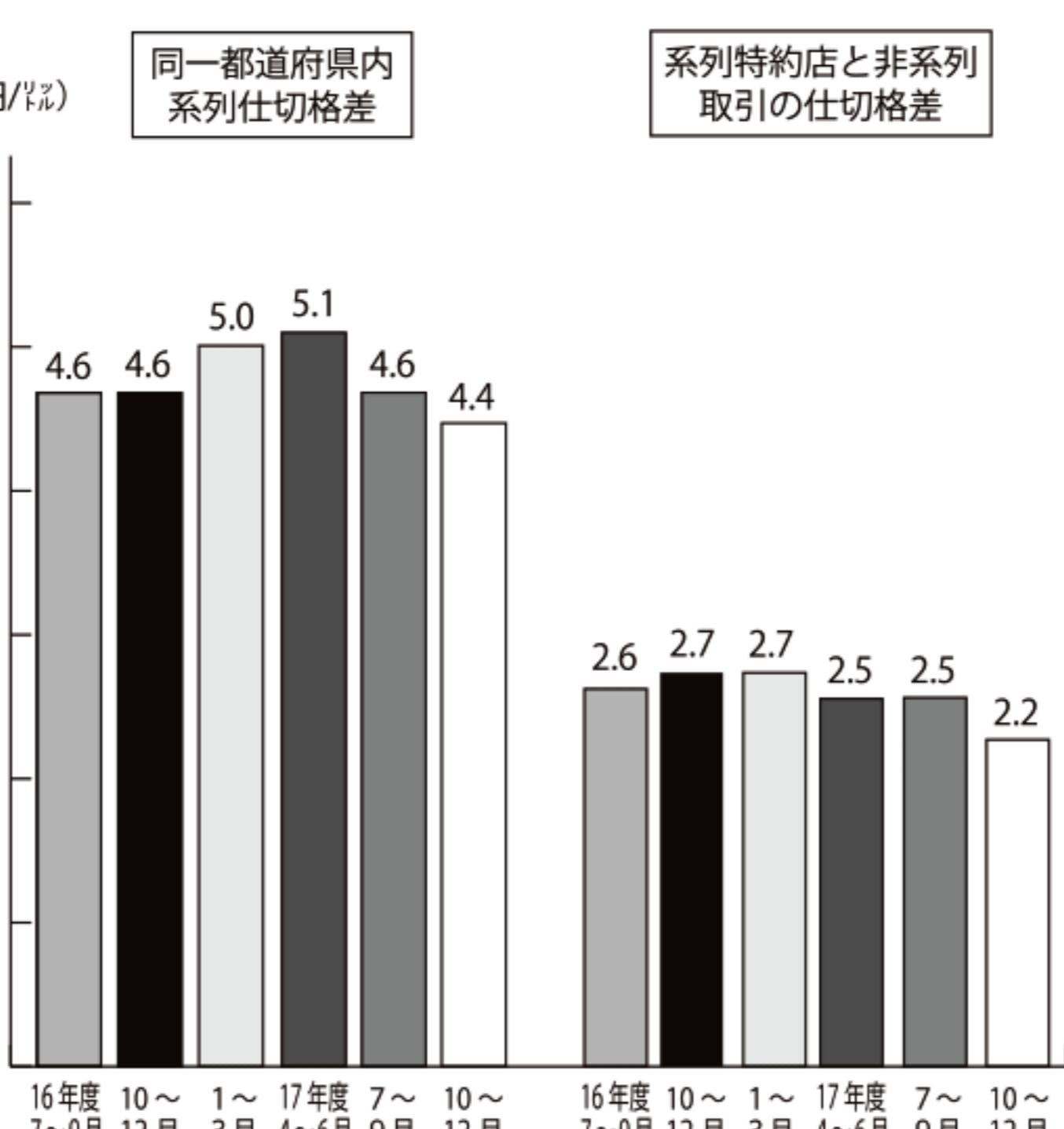


ガソリン仕切格差の推移



静岡県浜松市天竜区

廃業後も髪引かれ…

静岡西部に位置する浜松市天竜区のSS過疎化の深刻な現実に関心が高まっている。静岡石商(鈴木社長)が今年2月に浜松市などSS過疎化対策について意見交換を行い、3月に開催された資源エネルギー庁次世代燃料供給インフラ研究会第2回会合でも浜松市の担当者が出席し、SS過疎化が進む実態を説明(既報)した。現在、天竜区のうち春野地区では地場SSのマルハナ(花島基社長・出光系)が事業継承や地下タンク対応の問題から2022年を目途に廃業の意向を示し、同地区的SS過疎化が加速することが懸念されている。

夫婦で燃料供給支え半世紀

花島社長(右)が運営するISSは山上近くで、道路は狭く、車両通行量が少ないことから、SS設置を検討している。消防法対応なども課題だ。マルハナの花島社長は、「うちが廃業すると14歳までの間に恐れが大きい」と話す。一方で、同SSは「SSが運営するのみと言つても過言で、数年後には春はない」と危機感を示す。同地区から浜松市野地区でも消失の状態だ。

野地区でも消失の状態だ。

